

# 伝統と最新鋭技術を併せ持つ



## 株式会社紅久

## 三浦裕司社長



大手金属リサイクルの「紅久」(豊橋市曲尺新田町、三浦裕司社長)は今年2月5日、社名を「紅久商店」から変更した。江戸時代創業の伝統を重んじるとともに、進取の精神に富んだ近代的な会社を目指す願いを込めた。社名変更の狙いや今後の会社経営について三浦社長に聞いた。

(聞き手・原基修東愛知新聞社社長)

### 金属リサイクル

「会社の沿革をお聞かせください。」

◆当社にとって過去の大きな転機は、一つ目は明治維新後の幕藩体制崩壊や化学染料の普及による紅花商売の衰退時に8代目当主が1902(明治35)年に「紅久」という屋号で金属リサイクル業へ転身したことです。二つ目は19年に「合名会社紅久商店」を設立することにも、当時大流行していたスペイン風邪を乗り越えたこととして、三つ目は58年に、トピー工業の前身である東都製鋼製鋼所開設に伴い「株式会社紅久商店」を設立し、原料納入を開始したことで、であると考えています。



紅花商の時代に使われた吉田城に入るための入城手形(安政4年)

「事業内容を教えてください。」

◆東三河にある株式会社紅久の4事業所と浜松市にある子会社の中村金属興業株式会社で、金属リサイクルとその周辺事業を展開しています。具体的には、あらゆる発生源から回収した鉄、非鉄金属スクラップを元に独自の選別、加工技術によって高品位のリサイクル原料を創り出し、製鉄メーカーや、非鉄精錬メーカーへ納入しています。また東三河では唯一、国指定「小型家電リサイクル法の認定事業者」でもあります。廃小型家電の再資源化への高い技術力と環境負荷低減効果が評価され、「2017愛



本社工場

知環境賞・銀賞」「豊橋子会社化しました。浜松地区はススキ、ホントウ、ヤマハをはじめとする大規模な生産工場がたぐさんあり、金属スクラップの一大発生地であることから以前より魅力を感じていました。中村金属興業は、1937年創業の老舗企業ですが、縁あって当社のグループに入っていたことがきっかけになりました。現在は私が社長を兼務していますが、当社の培ってきた金属リサイクル技術を中村金属興業へ導入する

◆社名変更の動機、思いをお聞かせください。

「新型コロナウイルスの流行で不安定な世の中になりました。紅久の先人の歴史をたどると、1902年に「紅久」という屋号で従来の紅花商から金属リサイクル業に業種を大転換し、19年に「合名会社紅久商店」という商号で会社組織にしました。その頃は、スペイン風邪が大流行し日本国内で45万人もの死者が出たと聞いています。その当時の日本の人口は現在の約半分の5600万人程度だったそうです。現在の新型コロナウイルスによる国内の死者数は8

◆地域貢献活動についてお聞かせください。

「環境保護ボランティア活動にも積極的に参加しています。当社が企業として活動しているのは、朝倉川水系とならば、水質を向上させるために、毎年参加しています。フェニックスのスポーツサリ歴は長く、2008年のBJリーグ所属の「浜松・東三河フェニックス」時代からスポンサーとなり応援を続けています。未来を担う子どもたちにリサイクルの大切を伝えようとして、市内の小学校の児童にCSR活動も積極的に展開しています。夏休みには市内の中学生を招いて企業見学を実施し、金属やプラ



工場内を見学する子どもたち。社会貢献も積極的に実施している

◆今後のさらなる発展を期待しております。ありがとうございました。

「今後のさらなる発展を期待しております。ありがとうございました。」

と併せ、廃棄物の減量と地球環境の保全をすることで、地域社会に貢献します。当社の企業理念です。企業活動を一生懸命すれば、それに比例して廃棄物の減量と高品位のリサイクル資源の創出が得られます。「お取引先(社員)の利益」と「地球環境保全」と「社会貢献」が両立する働き甲斐のある仕事である、と、ありがたく思っています。昨今は、労働人口の減少、労働力の改正など課題は多いですが、5Sの行き届いた工場、安全管理体制の強化、職場環境の向上、組織の近代化を進め、持続可能な会社でありたいと考えています。

本社事務所

### 社名変更を決断

「社名変更の動機、思いをお聞かせください。」

「新型コロナウイルスの流行で不安定な世の中になりました。紅久の先人の歴史をたどると、1902年に「紅久」という屋号で従来の紅花商から金属リサイクル業に業種を大転換し、19年に「合名会社紅久商店」という商号で会社組織にしました。その頃は、スペイン風邪が大流行し日本国内で45万人もの死者が出たと聞いています。その当時の日本の人口は現在の約半分の5600万人程度だったそうです。現在の新型コロナウイルスによる国内の死者数は8

### 地域貢献活動

「地域貢献活動についてお聞かせください。」

「環境保護ボランティア活動にも積極的に参加しています。当社が企業として活動しているのは、朝倉川水系とならば、水質を向上させるために、毎年参加しています。フェニックスのスポーツサリ歴は長く、2008年のBJリーグ所属の「浜松・東三河フェニックス」時代からスポンサーとなり応援を続けています。未来を担う子どもたちにリサイクルの大切を伝えようとして、市内の小学校の児童にCSR活動も積極的に展開しています。夏休みには市内の中学生を招いて企業見学を実施し、金属やプラ

### 持続可能な会社

「今後のさらなる発展を期待しております。ありがとうございました。」

と併せ、廃棄物の減量と地球環境の保全をすることで、地域社会に貢献します。当社の企業理念です。企業活動を一生懸命すれば、それに比例して廃棄物の減量と高品位のリサイクル資源の創出が得られます。「お取引先(社員)の利益」と「地球環境保全」と「社会貢献」が両立する働き甲斐のある仕事である、と、ありがたく思っています。昨今は、労働人口の減少、労働力の改正など課題は多いですが、5Sの行き届いた工場、安全管理体制の強化、職場環境の向上、組織の近代化を進め、持続可能な会社でありたいと考えています。

### 三浦社長略歴

- 1961年 4月2日生まれ
- 80年 県立時習館高校卒
- 85年 早稲田大学政治経済学部卒、阪和興業株式会社入社
- 88年 株式会社紅久商店入社
- 95年 取締役
- 2007年 代表取締役専務
- 19年 代表取締役社長

### 沿革

- 前史 享保年間(1700年代初期)より、豊橋市曲尺手町で紅花商を営む。1775(安永4)年、吉田藩より紅花商御用商人の営業許可を取得。以来、七代にわたり「紅屋久兵衛」を襲名し、吉田藩御用達の類紅、口紅などの紅花化粧品を販売。
- 1902年 八代目当主三浦多吉が業種変更を決断。紅屋久兵衛にちなみ、「紅久」という屋号で豊橋市曲尺手町で金属リサイクル業を創業。
- 18~19年 スペイン風邪流行。日本国内での死者は45万人に達した。
- 19年 三浦多吉を代表とする「合名会社紅久商店」を設立。
- 30年 九代目当主三浦久兵衛が「合名会社紅久商店」の代表社員となり、金属リサイクル業を拡大。
- 31年 豊橋市駅前大通2に狭間町営業所と倉庫を開設し、金属原料の貨車輸送を開始。
- 37年 渥美線柳生橋駅隣接地に本社と倉庫を移転。鉄道引込線を利用し貨車輸送を促進。
- 45年 戦災により休業。
- 47年 営業再開。
- 58年 三浦伊久郎を代表とする「株式会社紅久商店」を設立。東都製鋼株式会社豊橋製鋼所(現トピー工業)稼働に伴い指定直納問屋として原料納入開始。
- 66年 花中町に本社事務所と工場を建設。
- 69年 豊川市桜木町に豊川工場を建設。
- 78年 豊橋市三弥町に東工場建設。
- 89年 神野新田町に港工場建設。
- 99年 豊川市白鳥町に白鳥工場建設。
- 2002年 穂ノ原工業団地内に穂ノ原工場建設。
- 07年 三浦圭吾氏が株式会社紅久商店 代表取締役社長に就任。
- 13年 小型家電リサイクル法認定事業者取得。本社事務所を旧港工場敷地内に建設し、移転。本社工場として統合。
- 17年 高度なりサイクル技術力と環境負荷低減効果が評価され「愛知環境賞銀賞」「豊橋商工会議所環境経営賞最優秀賞」を受賞。
- 19年 三浦裕司氏が株式会社紅久商店代表取締役社長に就任。浜松市の金属リサイクル会社「中村金属興業株式会社」の発行済全株式を取得し完全子会社化。商号変更し社名を「株式会社紅久」に。
- 21年